

松原漁場におけるセタシジミ肥満度の経月変化

幡野 真隆・石崎 大介

1. 目的

セタシジミの肥満度は産卵量の指標となっており、年度や漁場毎に変動があることから、餌料条件等の漁場環境を反映していると考えられる。しかし、その経月変化は十分に明らかになっていないため、肥満度が減少し、回復する過程を昨年度から引き続き調査した。

2. 方法

調査は従来から北湖主要漁場で産卵期前に実施している肥満度調査において肥満度の高い漁場である彦根市松原地先に4定点（水深4m（資源概況調査の松原地点）、5m、10m および15m）を設定し、2012年4月18日から2013年3月12日にかけて概ね月1回の間隔で行った。サンプルは滋賀水試で開発した噴流式定量桁網（開口幅8cm、採取厚3cm、網目合1cm）を用いて採取した。採取したサンプルの中からセタシジミを選別し、殻長18mm以上の個体から各地点最大12個体をサンプルとした。産卵しないよう18℃以下の環境で1晩畜養して砂を吐かせた後、全重量を測定した。解剖して軟体部をステンレスカップ内に移し、100℃で24時間乾燥させた後、デシケータ内で冷却し、乾燥重量を測定した。測定後、以下の式により肥満度を算出した。

$$\text{肥満度 (\%)} = \text{軟体部乾重量} / \text{全重量} \times 100。$$

3. 結果

各定点における肥満度は過年度と同様、松原15mで低く、松原や松原5mで高い傾向であった。2011年度は秋以降の肥満度が低水準であったため、2012年の産卵期の肥満度は最大でも2.6%であった。産卵後は10月から11月頃まで肥満度は低下したが、その後は安定した回復傾向にあり、2011年度に観察されたような冬季の回復の停滞は観察されなかった。

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。

2013年3月の肥満度は松原で3.4%であり、2011年同期の水準以上に回復していた。引き続き肥満度の変化を把握していくとともに、肥満度の変動要因についても調査していく必要がある。

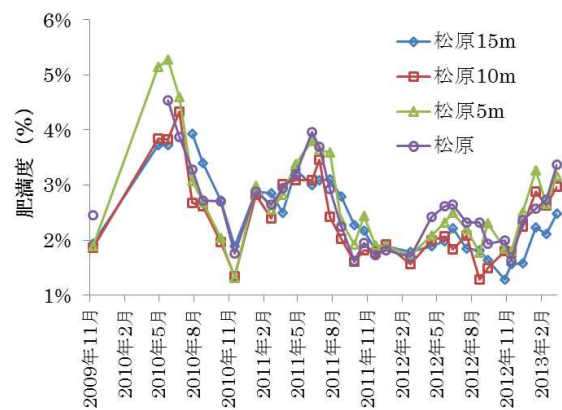


図1 松原漁場における肥満度の経月変化